

中国都市家族における母親規範のロジック — 専業ママは高尚で、専業ツマは従属的 —

中国哈爾濱師範大学 東方言語学院 鄭楊

2019年06月14日

明治大学(駿河台キャンパス)



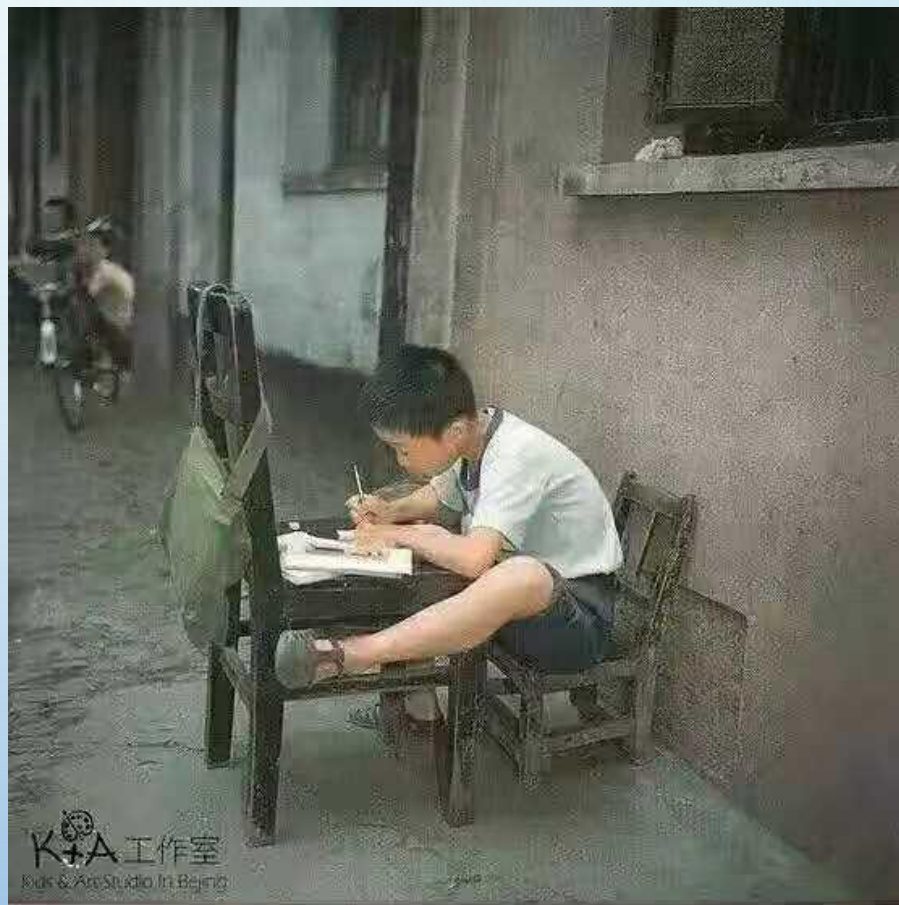
比起带孩子，我还是喜欢上班！



K+A 工作室
K&A Studio in Beijing

パンダのゴミ入れ

読み本屋の街



K+A 工作室
K&A Studio in Beijing

夕暮まで歩道で勉強をする少年





研究背景

中国女性の就業率は高く、長年70%くらい保っているが、近年都市部を中心に、**専業主婦が増加**している。

しかし、増加している専業主婦をフォーカスする研究は少ない一方、**異なる結論**が見られる。

先行研究では、中国の主婦化傾向が社会、そして女性にとって「**進歩、後退**」であるという異なる結論が見出されている。

表 1 1990-2010 年 20 年间男女两性在业率比较

(单位: %)

	全国		城镇		农村	
	男	女	男	女	男	女
1990 年	96.1	90.5	90.0	76.3	97.4	93.9
2000 年	93.6	87.0	81.5	63.7	97.3	94.8
2010 年	87.2	71.1	80.5	60.8	93.6	82.0

数据来源: 根据全国妇联第 1-第 3 期中国妇女社会地位调查主要数据报告

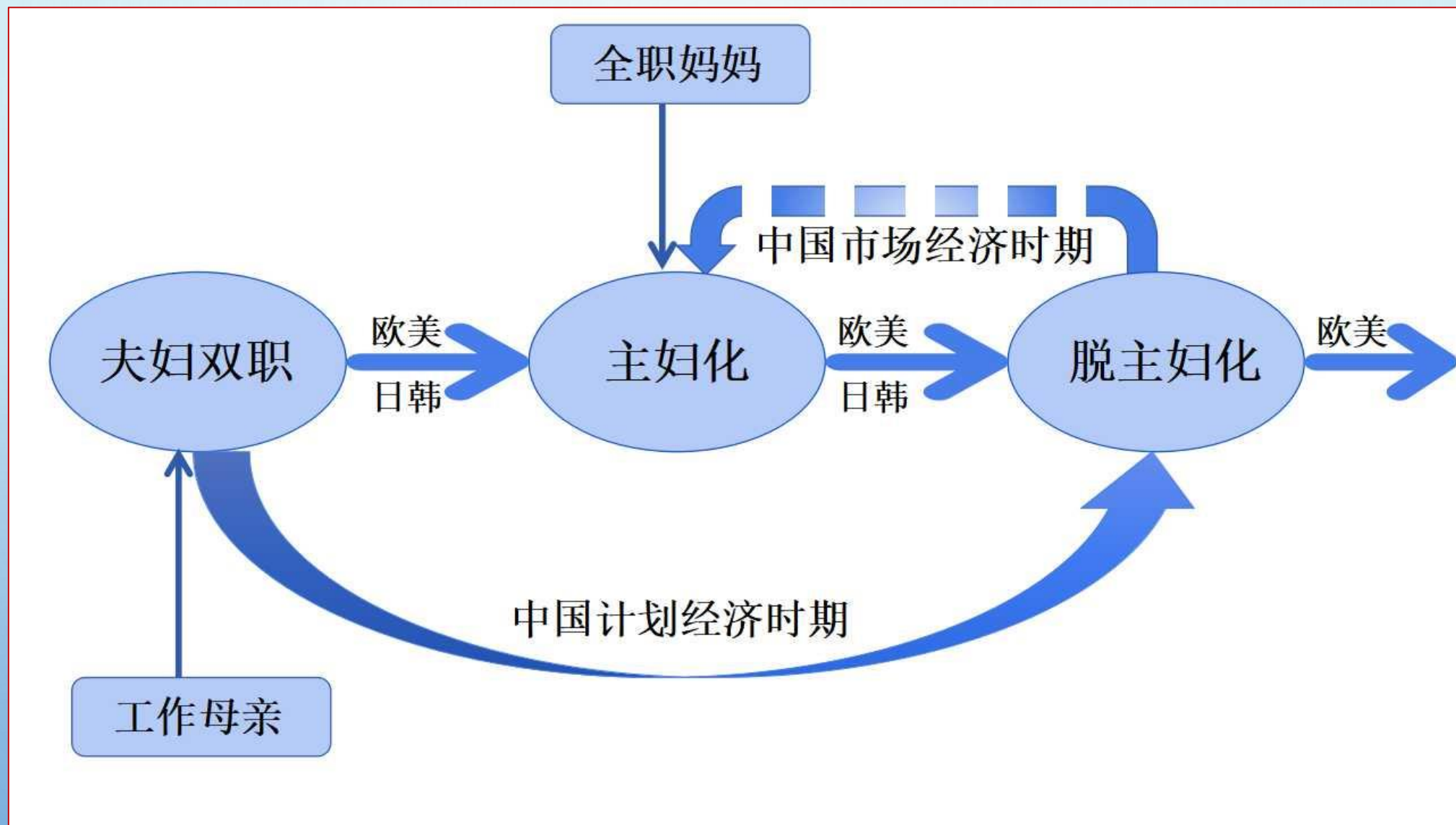
先行研究のレビュー

中国の主婦化は近代化の結果

(1) 社会主義中国では、中国の市場経済、急速な近代化により、主婦化が省略されず、都市部では主婦化の傾向が現れる（落合、2010；鄭楊、2012；呉小英、2014）。

(2) 主婦化の傾向は、国家の保護と管理、また伝統的な性別規範の束縛から解放された結果であり、女性の「**自分のために生きていく**」という選択である（鄭也夫、1994；呉小英、2014）。

(3) 「国家のために、家、個人を犠牲する」という計画経済時期の女性より、市場経済時期の若い女性は、愛情と家庭、妻と母親という役割に強い関心を示しており、それは毛沢東時代の「男女都一样（男女は同じ）」に比べて、「**自然**」な性別規範となっており、政府もこうした性別規範の変化を促している(LISA ROFEL, 2006)。



中国の主婦化は社会システムの圧迫から生じた結果

(4) 主婦化は社会システムの「押し出す」力と家庭の「引っ張る」力が複雑に女性に機能した結果であるために、市場経済への転換期に女性が家に戻ったことは、個人の選択であると同時に、**選択せざるを得ない一面を看過**することができない（宋少鵬、2011）。

(5) 計画経済時期では、「**寄生虫**」という蔑視のラベルが**家庭主婦**に貼られていたが、市場経済時期から「家庭愛」、「ゆりがこを揺らす手は、地球を動かす手である」と母性愛の崇高さを唱え、母親の重要性が認識されつつある中で、家庭主婦にも明るいイメージを植え付けた（方英、2009；宋少鵬、2011）。

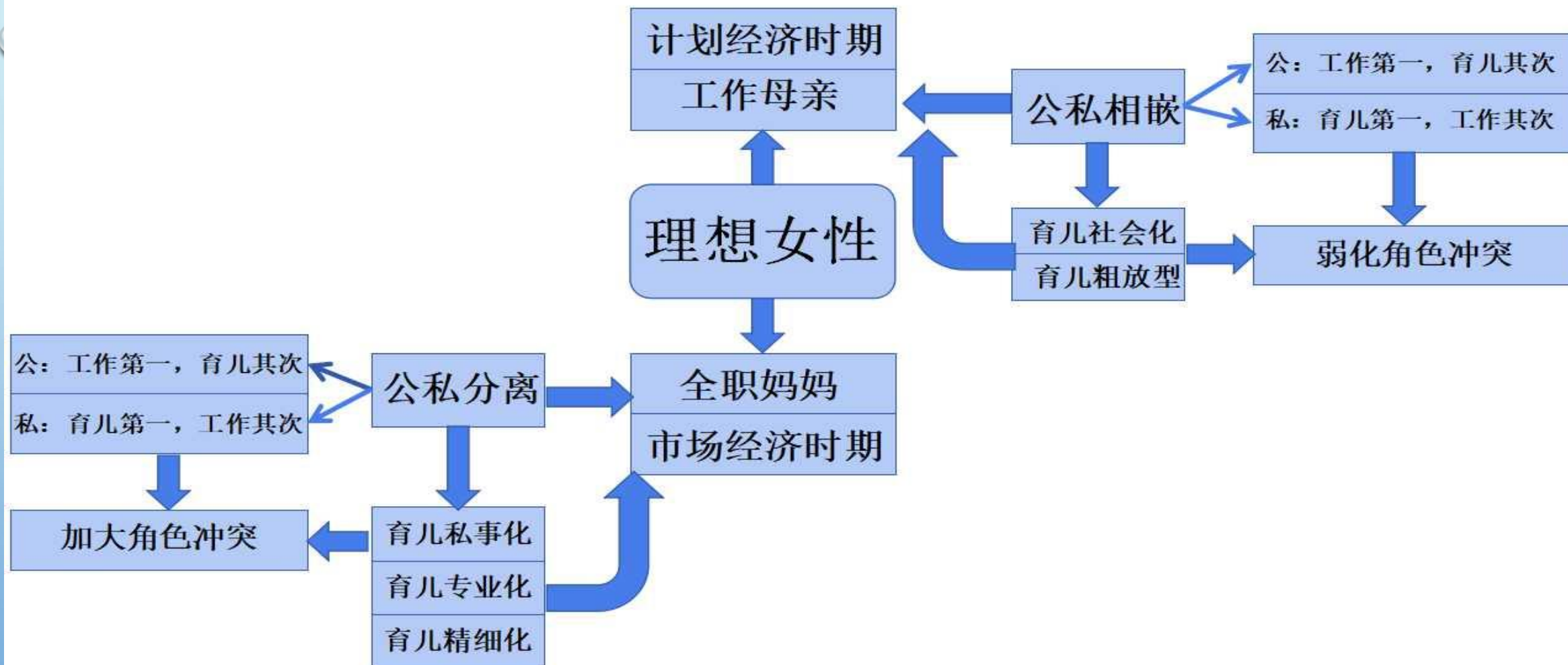
(6) 市場経済の深化と一人っ子政策の実行により、「良き母親」、「全能ママ」という理想な母親像が流行し、「**母親は天職**であり、母性愛は生まれつきものだ」と共通意識になっている。それに対して、研究者は、育児の専門化、消費市場、父権制の相互作用で、「良き母親」像を作りだされたと指摘している（陶艶藍、2013: 88－90；2015: 75；沈奕斐、2014: 69）。

(7) 「良き母親」の流行に伴い、「**密集母職**(INTENSIVE MOTHERING)」が都市部で大衆化し、女性は仕事、家庭の両立に多忙と疲労の日々を送っている（陶艶藍、2013；陳蒙、2019）なかで、仕事している女性より家庭に戻る**専業主婦の幸福感が高い**（呉愈暁など、2015）。

本研究の問い

1. [婦女帰家]についての議論は、重要な問いが看過された。
1950年代の家（女性が社会進出した時の家）と
1980年代の家（女性が社会から戻ってきた家）と、同じ家？
2. これまでの研究では、マクロ的な視点から制度的な家、「仕事をしている母親」に焦点をあて、仕事と家庭の両立を問題化しているが、しかし、ミクロの視点から日常的な家、専業主婦になっている女性の母親規範がほとんど注目されていない。
3. 日常的な家においても、「娘家（実家）」、「婆家（夫の家）」、「自分の家（夫、子どもと）」から同じ母親規範？

分析枠組み その一



分析枠組み その二

近代家族の導入

- (1) ロマンティックな恋愛
- (2) 子ども中心主義
- (3) 男は外女は内
- (4) プライバシーの成立
- (5) 家族という集団
- (6) 親族以外の人を排除
- (7) 家族は公的領域から私的領域へ
- (8) 核家族

研究方法

哈爾濱市、大連市、貴州など12名の専業主婦に半構造インタビュー調査を行い、その後、6つの家庭を訪問した資料に基づいて、分析を行った。

- **ケース1**

呉さん(1987年生まれ、**大卒**、会計の仕事、**子ども二人**、実家の両親と一緒に育児)

- 専業主婦になったきっかけ——育児専念したい、自ら辞職しようと決心した
- 辞職する時に、実家の母親に猛反対、母親を納得するために、時間がかかった
- **実家の母親の気持ち**——
- 子どもの教育に熱心の呉さんは、幼稚園に通わず、教育方針の一致する家庭と一緒に「**家庭園**」を作ろうと
- 専業ママになってからゆっくり生活できて、幸せな日々に



• ケース2

張さん(1985年生まれ、欧米で2つの修士号を取り、アメリカで一年間仕事した、夫は大学に就職したために、哈爾濱にきた、子ども二人)

- 専業主婦になったきっかけ———アメリカでの仕事の圧力で辞職した
- スウェーデンで専業主婦になったため、育児期間を楽しめたとし、充実した日々
- 基本的に核家族で育児している、子どもの教育は親中心にする



ケース 3

建梅さん（1988年生まれ、**高卒**、南の農村部から
哈爾濱へ出稼ぎで夫と知り合った、夫の家族と一
緒に居住、子ども一人）

専業主婦になったきっかけー子どもの誕生

二番目の子の妊娠でわかった時に、夫と夫の家族
は、産めないようにと、仕方がなく妊娠中絶した
が、それで夫の関係が悪く

今は子どもを幼稚園に入れて、自分は保育園の教
師になる研修を



ケース 5

劉さん（1980年生まれ、短大卒、夫の仕事で北京から哈爾浜に帰った、子どもが二人）

専業主婦になったきっかけ—子どもの誕生

専業主婦になってから、**鬱病**になったくらい自分の価値が分からなくなった。

二番目の子の妊娠がわかって仕方がなく、まだ専業主婦を続けているが、**育児関係のボランティア**を初めてから、活躍する場ができて、自分の価値がすこしずつわかるように



ケース 6

露露さん（1985年生まれ、修士、夫の仕事で上海の仕事をやめて日本へ、子どもが二人）

専業主婦になったきっかけ――結婚

日本での主婦生活を楽しんでいるが、実家の両親は「専業主婦」になったことに不安、夫の両親は、息子の経済的な負担を減らすために、仕事に復帰してほしい。

実家からも、夫の両親からも、**経済支援**を受けている。ネットの化粧品販売を始めている



考察と結論

(1) 1950年代の家と1980年代以後の家は、同じではない

精緻なる育児、家族愛の大衆化

(2) なぜ専業主婦になる女性の母親規範が注目されていないのか

母親規範のズレ、葛藤は、仕事と家庭の両立によるものと思われたが、専業主婦になってからも、役割の衝突がほとんどないと思われてきたが、社会から家に帰った後の価値、母親規範に対して、悩んだりしていることが分かった。

(3) 「娘家（実家）」、「婆家（夫の家）」から異なる役割を期待される。

「娘家（実家）」は、娘（専業主婦の女性）の社会復帰のために育児への援助を提供するが、「婆家（夫の家）」は嫁に仕事と育児の両立を期待している。

「母」と「妻」の役割に対しては、専業主婦は、母親に価値を置き、育児のために自己犠牲しても良いと考えているが、夫のために辞職し「専業ツマ」になるなら経済と精神の両面で自立しておらず、依存的な人間になってしまうというロジックを持っている。





ご清聴ありがとうございました。